

1. 調査の概要

1.1 調査の背景と目的

ベトナム政府は 10 カ年開発戦略(2001-2010 年)及び5カ年計画(2001-2005 年)の中で貧困削減を重要な政策目的としてあげている。農村経済の発展戦略として、工芸村振興による地域の開発と、非農業分野の雇用創出のための技術の普及など、農村における非農業分野の役割を重視した政策が打ち出されている。さらに 2002 年 5 月に掲げられた「包括的貧困削減・成長戦略」(CPRGS)では重点政策の一つとして、地方での中小企業育成を掲げており、零細工業及び工芸産業について様々な視点からその方向性を位置づけている。

本調査は、ベトナムの工芸セクターの振興を梃子に農村部の地域振興を促進するための方策を明らかにすることを目的としており、具体的には下記である。

- ① **工芸振興マスタープランの作成**: 工芸振興を通じた農村振興のための実効性のある政策フレームワークを作成し提言する。
- ② **パイロットプロジェクトの実施**: モデル省におけるパイロットプロジェクトの計画・実施を通じて、政策フレームワークの実効性を検証するとともに、パイロットプロジェクトの持続可能性と反復性を確認する。
- ③ **ベトナム政府への支援**: 技術移転や関係機関の調整を通じて、調査のプロセス及び成果についてベトナム政府機関のオーナーシップが高まり、政策実施メカニズムが確立されるように、必要な支援をする。

1.2 対象地域と工芸品目

本調査で対象とする主要な工芸品は①い草細工、②漆器、③竹細工・籐細工、④陶磁器、⑤刺繍、⑥織物、⑦木工(椅子、机、彫刻等)、⑧石彫、⑨紙、⑩版画、⑪金属加工品の 11 品目である。また、調査対象地域はベトナム全土(全 61 省¹⁾)であるが、このなかでも特に工芸村(Craft Village)が多く存在する省や、目標とする地域振興に工芸品が重要な役割を果たす地域に重点をおいた。

1.3 調査実施体制

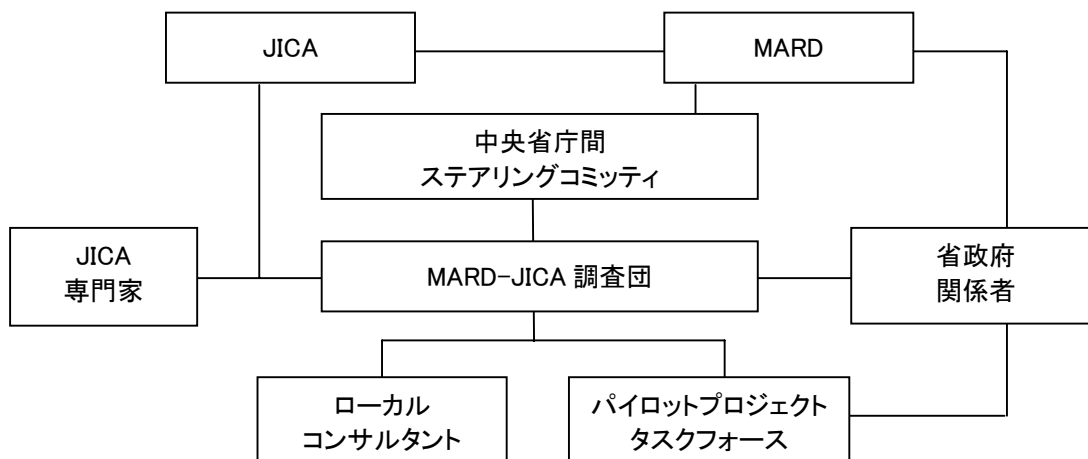
ベトナムにおける工芸振興は、多くの行政機関が直接・間接に関係する。そのためステアリングコミッティには当初、調査カウンターパートである農業農村開発省農林加工品製塩業課を中心に、調査の過程で工業省、文化情報省、商業省、政府官房、計画投資省、労働傷病兵社会福祉省、教育訓練省、資源環境省が参加し、合計9つの中央省庁がステアリングコミッティを構成した。

モデル省はパイロットプロジェクト活動を重点的に行なう地域であるが、同時にこれらの経験をもとに中央レベルでの政策と工芸村/コミュニケーションレベルの課題を調整し、具体的な施策を実施

¹⁾ 2003 年 11 月 26 日国会において、省の行政界に関する 22 号決定(“Resolution No. 22/2003/NQ-QH11 of November 26, 2003 by the National Assembly on Division and Adjustment of the Administrative boundaries of A Number of Provinces”)を決議し、カントー省、ダックラック省、ライチャウ省がそれぞれ分割され、全国 64 省となった。

する主体としての役割を果たすことが求められた。そのために省政府内でのカウンターパート体制がとられた。また調査の実施には多岐の分野にわたるローカルコンサルタントの参加を得て調査団と協力して調査に関わった。またパイロットプロジェクト完了後にはローカルコンサルタントの支援を受けてモデル省工芸振興マスタープランの作成を試み、一定の成果を得た。

図 1.1 調査実施体制



出典:JICA 調査団作成

1.4 調査のフロー

調査ははじめに工芸マッピング調査や専門家の調査をもとに工芸セクターの直面する現状の問題と課題を分析し主要課題を抽出した。これらに具体的に取り組むためにモデル省を選出し、モデル省を中心にパイロットプロジェクトを実施し、この結果をもとにマスタープランを作成した。その過程で、工芸セクターに関わる様々なステークホルダーを調査やプロジェクト実施に可能な限り直接に関与させることで、マスタープランの実効性を高めるとともに、ベトナム側のオーナーシップを高めるように努めた。全 61 省を対象としたセミナーやワークショップ、工芸関係者(民間企業、NGO、マスターアルティザン等)を対象としたフォーカスグループディスカッションなど、参加型による意見交換の場を継続的に開催した。これによって問題や課題についての議論は深まり、同時に関係者の参加意識が高まった。(調査フローは図 1.2 参照)

1.5 モデル省の選定

マスタープランを実行力のあるものとするために、①省レベルで政策が担保されること、②具体的な課題(イシュー)についての、あるいは現場(工芸村)での施策が実際に機能し効果が検証できること、の2点を具体的に検討するためにモデル省を選び、パイロットプロジェクトを実施した。パイロットプロジェクトは必ずしもモデル省に全て含まれるわけではないが、基本的にはモデル省を中心にパイロットプロジェクトを展開した。

マッピング調査結果をもとにクライテリアを設定して全 61 省を類型化し、代表的な省をモデル候補省として抽出した。全省の農業農村開発部(DARD)又は工業部(DOI)の代表者が参加したモデル省選定ワークショップでの意見交換、及びステアリングコミッティでの議論を経て、4モデル省(北部ハタイ省、中部クアンナム省、南部アンザン省、山岳地帯ライチャウ省)を選定した。

図 1.2 調査の全体工程

年・月	段階	調 査	レポート・協議	セミナー・ワークショップ	
2002	2 国内準備	1 関連情報・資料の収集、整理及び分析	2 インセプションレポートの作成		
	3 第一次現地調査	6 工芸品に関する全国マッピングの準備(1)	4 工芸品に関する現状調査・分析(1)	3 インセプションレポートの説明・確認	
			5 関連プロジェクトの活動状況の把握		
	4				
	5 第一次国内作業	8 工芸品に関する全国マッピングの準備(2) 14 工芸品に関する全国マッピングの実施	7 第一次現地調査結果の整理・分析		10 セミナー開催準備
			9 日本における地場産業振興策のレビュー		11 工芸品の展示会及び品評会開催準備
	6 第二次現地調査		12 工芸品に関する現状調査・分析(2)		13 セミナー及び展示会・品評会の開催
	7 第二次国内作業	16 工芸品に関する全国マッピングの分析	15 第二次現地調査結果の整理・分析		
	8 第三次現地調査	18 モデル省の選定	17 ヴィエトナム側との意見調整		
	9 第三次国内作業	20 モデル省の現状調査			19 モデル省選定ワークショップの実施
21 パイロットプロジェクト候補の検討					
10 第四次現地調査			22 パイロットプロジェクトの内容についての協議		
2003	11 第四次国内作業	25 パイロットプロジェクトの内容の決定 26 パイロットプロジェクトの実施	23 インテリムレポートの作成		
			24 インテリムレポートの説明		
	12 第五次現地調査	パイロットプロジェクトの実施内容については事業団との協議に基づき、契約変更を行う予定	マスタープラン		
			27 プロGRESSレポートの作成		
	1 第四次国内作業	41 パイロットプロジェクトの継続支援	29 ヴィエトナム工芸振興の概況及び工芸品の現状と課題の整理	28 プロGRESSレポートの説明	
			30 マスタープランの作成		
	2 第五次国内作業	31 アクションプランの作成	32 ドラフトファイナルレポートの作成		33 ドラフトファイナルレポートに係るセミナーの開催準備
	3 第六次現地調査	39 マスタープランの実現化支援			
4 第五次国内作業	40 ファイナルレポートの作成及び提出				
5 第六次現地調査	相手国機関が主体的かつ継続的に運営できるよう必要に応じて助言をする				
6 第七次国内作業					
7 第七次現地調査					
8 第六次国内作業					

出典: JICA 調査団作成

1.6 パイロットプロジェクト実施地域

パイロットプロジェクト実施地域は、パイロットプロジェクトで検証すべき課題が明確でその対応が必要とされており、省政府や人民委員会(PC)、裨益者である村民の参加意欲と協力体制がある地域が選ばれた。また、全国を対象としたり、工芸村ではなく工芸品や工芸関係者を対象とする一部のパイロットプロジェクトについては、特定の工芸村を選定せずに行なった(表 1.1 参照)。

表 1.1 パイロットプロジェクト実施工芸村と対象品目

PP ¹⁾	省	ディストリクト	コミュニン	工芸村	工芸品
PP1 ²⁾					
PP2	ハタイ省	Thach That	Binh Phu	Thai Hoa	竹・籐製品
		Hoai Duc	Son Dong	Son Dong	木彫品
		Thanh Oai	Thanh Thuy	Du Du	木彫品
		Chuong My	Phu Nghia	Phu Vinh	竹・籐製品
		Thuong Tin	Ninh So	Xam Duong 3	竹・籐製品
			Van Diem	Van Diem	木彫品
	Phu Xuyen	Phu Tuc	Luu Thuong	植物編み製品	
	クアンナム省	Tam Ky Town	Tan Phu	Tam Phu	木工品
			Tan Thanh	Phan Boi Chau St.	木工品
		Hoi An	Cam Kim	Kim Bong	木彫品
		Duy Xuyen	Duy Son	Tra Kieu	竹・籐製品
			Duy Phuoc	Hamlet 3	竹・籐製品
	Nui Thanh	Nui Thanh	Hamlet 3	竹・籐製品	
タイビン省	Kien Xuong	Nam Cao	Cao Bat	絹製品	
	Thai Binh	Phu Khanh	Phu Khanh	絹製品	
PP3	バックニン省	Gia Binh	Dai Bai	Dai Bai	ブロンズキャストイング
	ライチャウ省	Dien Bien	Nua Ngam	Na Sang 2	少数民族織物(ラオ族)
PP4 ²⁾					
PP5 ²⁾					ブロンズ、石彫、木彫、漆器
PP6	ハタイ省	Ha Dong	Van Phuc	Van Phuc	絹織物
PP7	アンザン省	Tinh Bien	Van Giao	Van Giao	少数民族織物(クメール族)
	ライチャウ省	Tua Chua	Xinh Phinh	Ta La Cao	少数民族刺繍(赤モン族)
PP8	ハタイ省	Thoung Tin	Duyen Thai	Ha Thai	漆器
	ニンビン省	Kim Son	An Hoa	Hamlet 8	い草
PP9 ²⁾					全 11 品目

出典:JICA 調査団作成

1) パイロットプロジェクト名は下記。

- PP1: 工芸情報システム
- PP2: 工芸クラスター開発
- PP3: 工芸の伝統的価値保存システム構築
- PP4: 工芸品振興のためのデザイン振興策の構築
- PP5: 国際競争力のある工芸品開発
- PP6: 工芸村の環境改善
- PP7: 少数民族のマネジメントキャパシティ向上
- PP8: 工芸村開発戦略
- PP9: ベトナム工芸コンペティション

2) PP1、PP4、PP5 は対象地域を限定せず実施した(全国対象若しくは特定の工芸品を対象)。

2. 全国工芸マッピング調査

2.1 マッピング調査の目的と構成

全国の工芸村の分布と現状、工芸振興に関わる問題や課題を明らかにするため、MARD とともに、全 61 省の協力を得て、全国工芸マッピング調査を行なった。2002 年 3 月から 6 月にかけて、MARD 主導のもと、都市部を除く全コミューン(約 9,400)を対象として、3種類の調査票からなるアンケート調査を実施した(表 2.1 参照)。

表 2.1 マッピング調査票の構成

調査票	目的	主な内容
フォーム1	コミューンの概況と調査対象工芸村 ¹⁾ の抽出	全国約 9,400 コミューンの基礎的データの収集と調査対象工芸村のリストアップ
フォーム2	対象工芸村の詳細情報収集	工芸村(特に工芸品に関わりが深く、その振興に関心のある村)の特定と対象工芸村に関する詳細な情報の収集と問題点の把握
フォーム3	対象工芸村を含むコミューンでの関連情報収集	コミューンレベルでの工芸品に関わる企業や組合の活動状況の把握

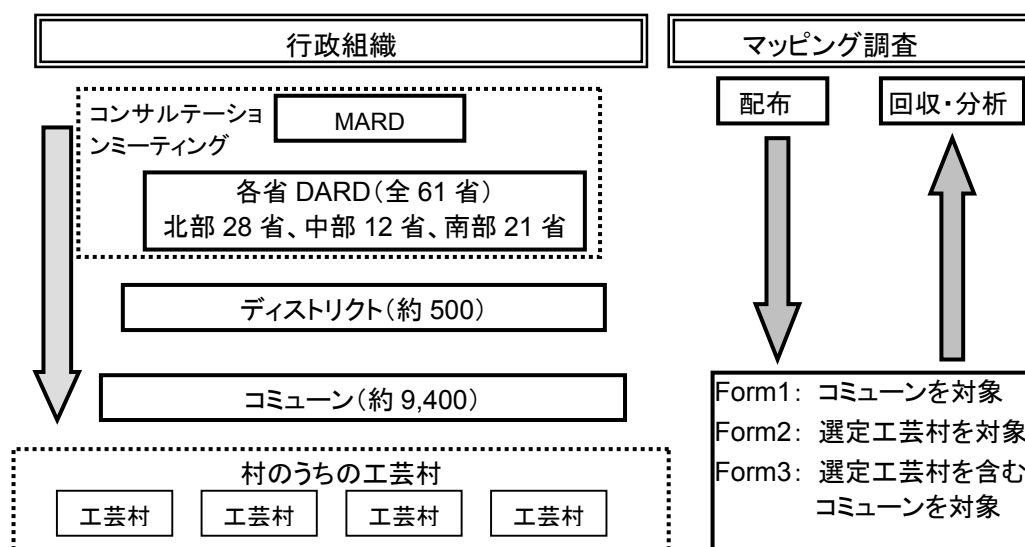
出典: JICA 調査団作成

1) 対象工芸村は①20%以上の世帯が工芸に関わっている、②工芸製作が村にとって重要とコミューンが判断する、のいずれかにあてはまる村を調査対象とした。

2.2 調査実施方法

調査開始にあたって、全 61 省を対象にコンサルテーションミーティングを開催し、調査フォームの最終化と、実施体制の指導を行なった。アンケート調査はコミューン及び工芸村が回答したのち、回収の過程でディストリクトレベル、省レベルのチェックを受け、最終的に MARD が回収した。このプロセスをローカルコンサルタントと MARD カウンターパートが監理した(図 2.1 参照)。

図 2.1 全国工芸マッピング調査の実施方法



出典: JICA 調査団作成

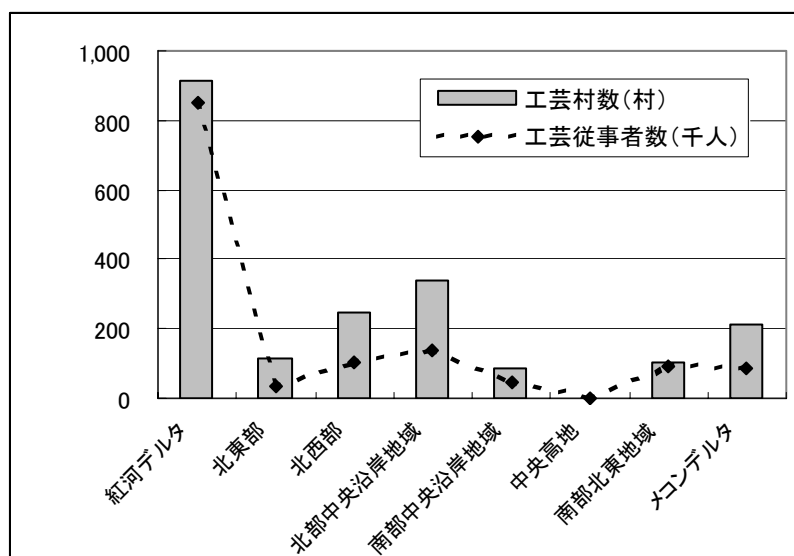
2.3 工芸村・工芸品の特徴

工芸村の分布: 全国 2,017 工芸村のうち、8 割が北部に集中しており、特にハノイ周辺の紅河デルタにその半数が集中している。また HCMC 周辺では民間セクターの活動が盛んである。対象 11 品目のうち、最も工芸村数が多いのは竹・籐(713 村)で、全体の 24.0%を占めている。次いで織物(432 村、14.5%)、木工(342 村、11.5%)、刺繍(341 村、11.5%)の順となっている。竹・籐や織物の工芸村が全国的に広く分布している。(図 2.2 参照)

工芸従事世帯の特徴: 工芸を主な収入源としている世帯は全世帯の1割に及び、特に紅河デルタ、南部北東地域、メコンデルタに多い。農業との兼業割合をみると、兼業農家が半数を占めており、特に工芸村の多い紅河デルタはその8割が兼業農家である。全国の工芸従事者約 135 万人のうち、品目別にみると、竹・籐(34.2 万人)、い草(23.3 万人)、織物(13.6 万人)、刺繍(12.9 万人)の順である。工芸従事者全体の 6 割以上が女性で、特に刺繍や織物は 8 割以上が女性であることから、工芸産業は農村部での雇用創出とともに、女性の自立支援にも貢献している。(表 2.2、図 2.3、図 2.4 参照)

工芸従事者の経済状況: 工芸従事世帯の貧困世帯率は平均 3.7%で、全世帯平均 10.4%を大きく下回っており、平均収入も全世帯に比べて高いことから、工芸製作は農村地域の収入向上に貢献しているといえる。(表 2.2 参照)

図 2.2 地域別工芸村数・工芸従事者数の分布



出典:2002 年工芸マッピング調査

表 2.2 工芸従事世帯の特徴

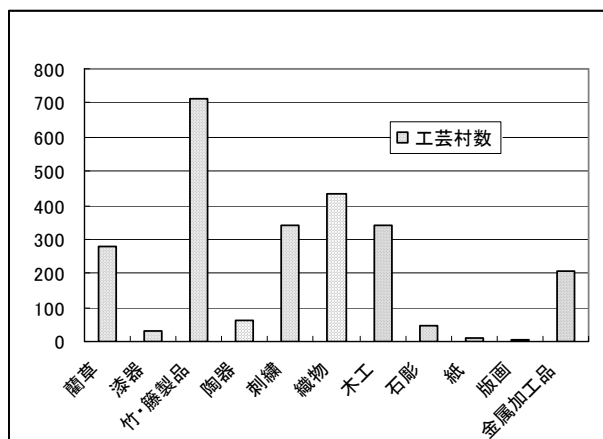
世帯	世帯		世帯平均月収 ³⁾		貧困世帯率(%)
	数(000)	%	VND000	US\$	
工芸従事世帯 ¹⁾	1,423	9.9	905	59.5	3.7
全世帯 ²⁾	14,390	100.0	713	46.9	10.4

出典:2002 年工芸マッピング調査

1) 主な収入源として工芸を挙げている世帯

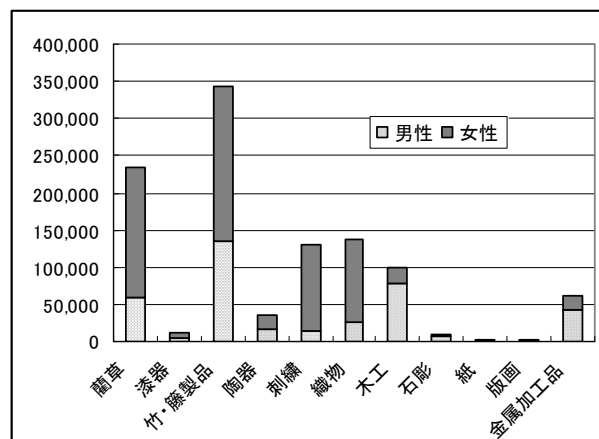
2) 農業、漁業、林業、工芸、製造業、サービス・ビジネス業、その他を含む世帯

図 2.3 品目別工芸村数



出典:2002年工芸マッピング調査

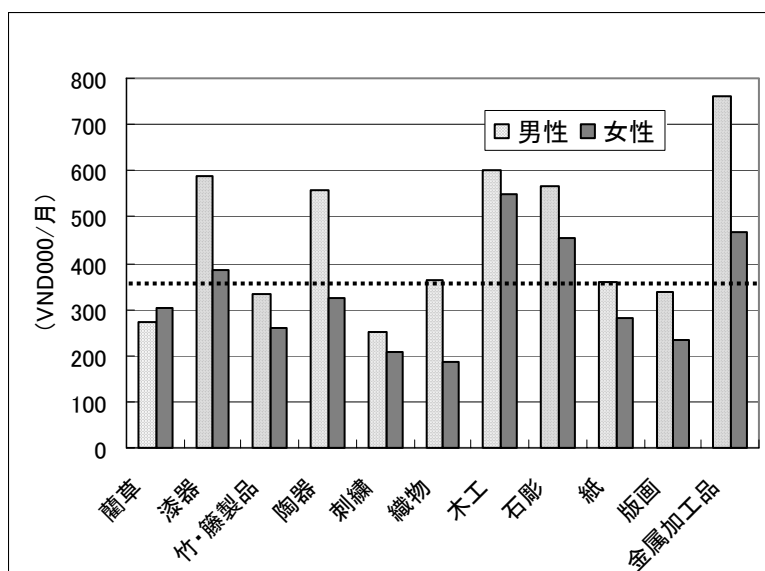
図 2.4 男女別工芸従事者数



出典:2002年工芸マッピング調査

工芸従事者の収入: 工芸従事者の平均月収(約 366,000VND、約 24.1\$)は、全国平均(約 295,000VND、約 19.4\$)や地方部平均(約 225,000VND、約 14.8\$)に比べて高く¹⁾、農村部では、収入向上のために農業から工芸に転換する農民も増えている。しかし未だに都市部(約 832,500VND、約 54.8\$)との格差は大きく、また農閑期の日雇い工芸従事者は専門技術者に比べて収入が低い。さらに品目によっても格差が大きく、漆器や木工は従事者数が少ないが、収入は高い。一方でい草や竹・籐製品は農閑期の副業として女性を中心に従事者数が多いが、その収入は低くとどまっている。その労働負担や市場価値に対して適正な収入が得られていないといえる。(図 2.5 参照)

図 2.5 品目別・男女別一人あたり月平均収入



出典:2002年工芸マッピング調査

1) 破線は全品目の平均月収(366,000VND)を示す。

¹⁾ "Vietnam Agriculture and Rural Area in the Renovation Period 1996-2002", GSO による。

工芸村が抱える課題: コミュニによる工芸製作に関する評価については、マーケット情報、資金、技術の不足が全国共通の課題として最も多く挙げられている。特にマーケット情報は、大市場に近い紅河デルタや南部北東地域に比べると、山岳地帯や沿岸地域で多く指摘されており、市場から離れた地域ほど情報不足に陥っている。また、いずれの地域も豊富な労働力に恵まれているが、その技術不足や経営者不足が指摘されており、優れた人材や技術が不足しているため、豊富な人材を活かしきれていない実情が伺える(表 2.3、図 2.6 参照)。

一方で、工芸村やコミュニティによる問題意識の低い課題についても留意する必要がある。原材料確保は持続的な工芸生産にとって、交通インフラは市場へのアクセスにとって、いずれも重要なインフラである。また、ベトナム工芸の伝統的価値は主に山岳地帯や僻地に残されていることから、市場評価を受ける機会がほとんどなく、伝統的技法やデザインは時代とともに変化し、衰退しつつある。

工芸村の振興にあたっては、産業発展や経済指標では図ることの出来ない文化的・社会的な側面にも配慮し、持続的・長期的な工芸振興のために必要な政策提案や支援を行なう必要がある。

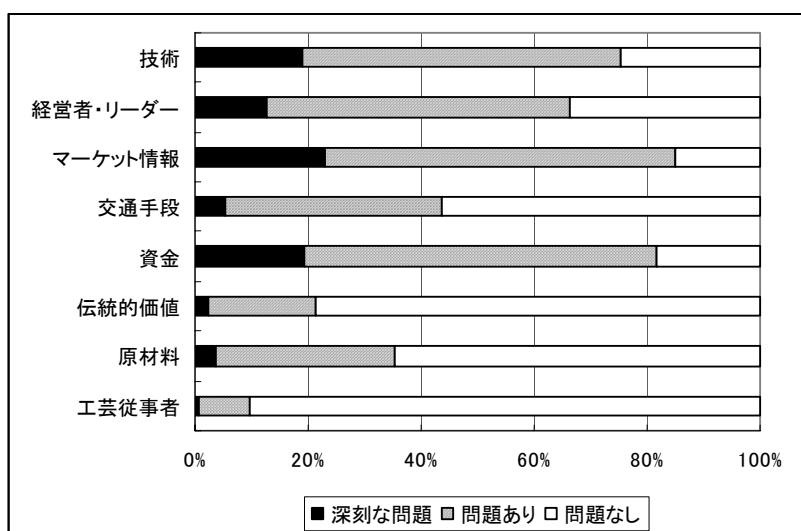
表 2.3 地域別工芸村の抱える深刻な問題¹⁾(%)

地域	工芸従事者	原材料	伝統的価値	資金	交通手段	マーケット情報	経営者	技術
1 紅河デルタ	1.3	2.8	1.8	15.8	2.9	15.3	7.2	11.0
2 北東部	0.0	3.5	4.2	8.4	7.0	18.2	15.4	21.7
3 北西部	0.2	7.5	1.2	28.6	1.0	34.4	12.3	23.1
4 北部中央沿岸地域	0.8	3.4	2.7	19.5	8.6	24.5	13.8	16.8
5 南部中央沿岸地域	1.0	5.0	0.0	16.0	7.0	28.0	10.0	24.0
6 中央高地	-	-	-	-	-	-	-	-
7 南部北東地域	1.6	2.4	0.8	5.6	4.0	19.0	15.9	27.8
8 メコンデルタ	1.8	2.9	0.4	17.3	7.4	16.5	7.7	11.0
全国	1.1	3.6	1.8	17.5	4.3	20.2	9.8	15.2

出典:2002年工芸マッピング調査

1)「問題なし」「問題あり」「深刻な問題」の三択で「深刻な問題」と回答したコミュニティの割合を示す。

図 2.6 工芸村が抱える問題



出典:2002年工芸マッピング調査

3. ベトナム工芸品の特徴と課題

3.1 背景

ベトナム工芸品は元来、近隣で原材料入手が可能なもの、伝統的に生活のなかで用いているもの、文化や宗教の一部、芸術として製作されたものが発展の土壌にある。しかし最近では、安い労働力やきめの細かい技術力などに海外市場が反応し、輸出用に大量に製作されるようになった工芸品も増えている。技術が改良され、新しい原材料、機械、設備、工具が手に入るようになり、それとともに新しい生産構造が生まれるようになった。大量生産品の他国製品との価格競争が激化し、差別化が図れずにいる一方で、オリジナリティと伝統的価値のある手づくりの工芸品に対する市場の需要も増えるようになっている。

ここでは、対象 11 品目ごとに、主に原材料、製作、市場、開発の可能性の視点からの分析をまとめた。

3.2 11 品目の現況と評価

A. い草製品

い草製品は、地場の原材料と平易な技術により生産可能で、農閑期に多くの農民を雇用して男女を問わず副収入を得られるため、ベトナム農村部に非常に適した工芸品といえる。国民の生活水準の向上により国内需要も増え、またヨーロッパとアジア諸国を中心に海外市場での人気も高い。また、自然素材を用いた環境に優しい工芸品である。

農村部の地場産業として今後も振興を図り、雇用促進と収入向上に貢献するためには、市場に適した商品開発(デザインと品質の向上)という短期戦略と、原材料の確保という長期戦略を組み合わせる必要がある。

従事状況: 39 省、281 村(9.5%)、233 千人(17.3%)



B. 漆器

漆器はアジアを代表する伝統工芸品であり、ベトナム漆器も宗教や文化と深い結びつきを持ちながら繁栄してきた。

専門技術を必要とし、工芸村や優れた職人はそれほど多くないため、全国的な普及は難しいが、ベトナム伝統工芸品としての漆器産業の保全と復興には、歴史、科学、芸術等、多面的な分野からの研究開発が必要である。また、輸出振興を図るためには、ベトナム漆の性質を活かした商品開発をさらにすすめていく必要がある。

従事状況: 8 省、31 村(1.0%)、11 千人(0.9%)



C. 竹・籐製品

竹・籐工芸品は、原材料開発に適した豊かな自然条件、豊富な労働力と安定した市場を持つ、ベトナムで最も盛んな工芸品である。比較的少ない資金でも早く利益を得ることが出来るため、農村部には非常に適した雇用創出源となっている。しかし一方で、品質改良の遅れや乏しいデザイン力のために、ベトナムの竹・籐工芸品の価値は低く、工芸従事者の生活向上の改善には未だ至っていない。

技術トレーニング、品質改良、商品開発に重点を置いた工芸品開発、及び、持続可能な製品開発のためには、原材料育成ゾーンの計画による地域間連携を図ることが重要である。

従事状況:50 省、713 村(24.0%)、342 千人(25.4%)



D. 陶磁器

陶磁器はアジアを代表する工芸品であり、地場の気候風土や伝統文化と密接に関わりあいながら発展してきた工芸品である。伝統的技法が長く受け継がれてきた反面、世襲制度や機械化の導入により、その伝統が失われつつある。また、海外輸出額は年々増進しており、ヨーロッパへの大型製品、アジアへの生活製品を中心に、都市近郊部の産地は産業規模を拡大している。

古い陶磁器は歴史的・文化的な価値も高く、その研究と保全が望まれる。一方で、手作りの風合いを活かしつつ一部機械化をすすめるなど、手工芸品と工業製品のメリットを相互に活かした工芸品として振興を図る必要がある。また、生産量の拡大により原材料である地場の土の枯渇問題が起きているため、適切な原材料採取計画が求められる。

従事状況:23 省、61 村(2.1%)、35 千人(2.6%)



E. 刺繍

ベトナムにおける刺繍は約 700 年の歴史がある。古くから寺、パゴダで用いられる宗教用具、統治者の衣服に取り入れられており、ベトナム文化の象徴といえる。19 世紀のフランス植民地時代には洋服やテーブルクロスといった日常生活用品にも刺繍が取り入れられるようになった。今日、刺繍は労働集約型の産業となっており、主に女性を中心に多くの雇用を創出している。

ヨーロッパ風のデザイン開発とベトナムの技術力、低コストによって競争力を強化することが可能である。また少数民族による伝統刺繍は、現代的にも市場価値を持つデザインがあり、衣料雑貨の装飾部品としての可能性が高い。

従事状況:12 省、341 村(11.5%)、130 千人(9.6%)



F. 織物

ベトナム国が誕生した 4 千年前頃の古代の墓から麻が見つかるなど、織物は非常に長い歴史を持つ。20 世紀初期になり新しい技術が導入され、織物が産業として発展した。主に紅河デルタ地帯を中心とした織物産業(主に絹、綿、麻)と、山岳地帯を中心とした少数民族の織物村に大別される。市場販売向けの織物は半機械化された織機で生産された製品が多く、手織物は衰退しつつある。一方少数民族による織物は今でも伝統的技法やモチーフが用いられ、今でも手織機や手作業が中心である。衰退しつつある伝統的な織物意匠とその技術保全と復興が、都市近郊部の織物産業、少数民族の織物に共通の課題である。

従事状況: 31 省、432 村(14.5%)、136 千人(10.1%)



G. 木彫

ベトナム木工品の発展は文化や宗教と深く関わっており、長い歴史を持つ工芸品である。ベトナムの優れた手工芸技術と丁寧なものづくりは、伝統的な師弟制度のなかで受け継がれている。国内需要も、生活水準の向上とともに伸びており、高級木工家具を使用する家庭が増えている。海外市場での人気も高い。伝統的な製品や技術として保全すべき工芸品と、家具や生活用品など国際競争力を伸ばすために開発すべき工芸品を区別して振興を図っていく必要がある。

従事状況: 35 省、342 村(11.5%)、100 千人(7.4%)



H. 石彫

石彫は石碑、パゴダ内の様々な装飾品、寺、墓、像、美術品など人々の生活の中で活用されている。海外輸出、国内販売ともに成長しており、現在はアジアやヨーロッパを中心に装飾品の輸出が大半を占めるが、生活用品などの商品の多様化によって、米国や日本など、さらに市場を拡大する可能性を持っている。鋳型による製品も増えているなかで、伝統的な彫刻技術の訓練を普及させる必要がある。また石彫は天然資源を原材料としているため、国全体で計画的な振興と発展を進める必要がある。原材料の安定供給や環境問題への対応のためには、地域間や国際間の連携体制についても検討すべきである。

従事状況: 12 省、45 村(1.5%)、10 千人(0.8%)



I. 手漉き紙

ゾーの紙(*Do paper*)は11世紀の李王朝(*Ly Dynasty*)から作られ、20世紀中頃まで人々の間で用いられていた。しかし近代的な紙が普及するにつれ、工芸村数も減少した。北部のバックニン省ズンオー村は、ズオン(*Duong paper*)と呼ばれる手漉き紙に従事する家庭が数百件集まる伝統的な産地であったが、近年は工業紙工場が激増し、現在では手漉き紙に従事する家庭は数件しか残っていない。

工業化が進むなかでの手漉き紙の伝統保全は、学術研究だけでなく新たな市場開発への取り組みによって一層促進することが望ましい。

従事状況:6省、8村(0.3%)、2.4千人(0.2%)



J. 木版画

11世紀以来中国から教典や仏教に関連する版画を作成するために発展した。19世紀に入ると仏教崇拝目的だけでなく、日常生活を題材にする版画が作成されるようになり、特に旧正月(“*Tet*” Holiday)の装飾に用いられ、全国民に親しまれた。歴史的に何百もの図案が存在したといわれるが、版画の衰退期に版木も販売されてしまったためかなりの量が損失している。

伝統的な原材料や図案、技術を保全することが緊急課題である。市場の安定した需要がないため、政府支援や保護政策、国内外の研究機関による伝統復興への取り組みが必要である。

従事状況:3省、4村(0.1%)、1.8千人(0.1%)



K. 金属加工品

2千年以上前につくられた銅製ドラムなど、古代から高い技術が受け継がれてきた。10世紀頃になって銅の鍛造技術が確立されると、青銅铸件より薄くて軽く、頑丈な銅鍛造品は人気を博し、食器類や小物類として普及するようになった。しかし現代は工業開発が進み、新たな素材の生活用品が売られるようになり、金属加工品は衰退しつつある。また、化学薬品の使用や有毒ガスなどによる、職人への健康被害や環境への悪影響も大きい産業である。

ベトナムの生活文化に古くから根付いた代表的な伝統工芸品であり、伝統価値や環境の変化など、社会や環境へのインパクトにも考慮した振興策が必要である。

従事状況:33省、204村(6.9%)、62千人(4.6%)



4. ベトナム工芸セクターの現状と課題

4.1 背景

工芸セクターには、工芸生産に直接関わる課題（原材料調達、工芸品製作・生産、マーケティング、販売・流通、市場開拓等）、生産を支える基盤整備の課題（人材育成、情報、生産技術、インフラ、法制度等）、さらには農村部の収入向上と持続的発展を目的とした課題（貧困削減、伝統保全、ジェンダー、少数民族、環境改善等）など多岐にわたる。このような工芸をめぐる諸問題を総合的に把握できていないために、政策が局所的になり、特に農村部や工芸産地において十分な効果がみられない。工芸セクター振興にあたっては、これらの課題を包括的に捉え、クロスセクターイシューに対して責任ある官と民の両セクターからの幅広いステークホルダーの協力のもとに取り組むことが求められる。

4.2 工芸セクターの主要課題

パイロットプロジェクトとマスタープラン作成に包括的にアプローチするため、下記の 17 主要課題について、現状と課題について分析を行なった。

原材料の確保	地場で入手していた原材料が枯渇し、村で生産が続けられない、安い原材料を購入して利用するため製品の品質が悪化するなどの弊害が出ている。持続可能な工芸生産を維持するためには、適切な採取計画、品質改良等が必要である。
技術改良	工業化の進展と市場の変化により、一部の工芸品製作のプロセスに機械が導入されることで、労働負担が減り、品質向上に貢献する一方で、伝統的に受け継がれてきた技術が失われつつある。機械作業を伴わない工程の存在が農村の雇用促進に貢献している側面を重視し、「手づくり」が市場での差別化と競争力につながることを配慮した上で、技術改良の対応策を進めていく必要がある。
品質改善	工芸品の品質は、原材料の品質と生産技術の品質、それらの管理と改善努力にかかっている。しかし工芸村では技術・設備不足や品質基準が存在しないこと、また品質検査を行なう公的機関が存在しないことから、品質の向上と平準化が必要とされている。
生産工程	工芸関連企業のほとんどが、バイヤーの希望する仕様、納期に対応した受注生産形態をとっている。作業員や下請け業者の技術的未成熟、作業員や家内工業で発生する不良品の修正・つくり直しの発生、材料・原材料保管場所の未整理によるムダの発生等が長い納期の原因となっている。生産工程の改善のためには、企業内だけでなく、産地及び地方政府の取り組みの双方が必要である。
デザイン	伝統工芸品の中にある技術を活用した製品や、既存技術を活かした異素材との組み合わせによる新しい製品の開発など、伝統技術・技法の活用が重要になってきている。伝統工芸品のデザイン振興の基本的方向は、伝統的資源を活かしつつデザインの方法を導入することである。デザインに対する共通認識と、デザイン振興を支援するためのシステム整備が求められている。
情報	市場のニーズが分からないために、同じ工芸品を作り続けたり、流通業者等の注文にあわせて商品を改良したりすることがほとんどで、工芸村自らがマーケット情報にアクセスする手段をほとんど持ち合わせていない。工芸に関するデータ・情報が一元的に集積され、関係者・利用者が自由にアクセスできるような施設もシステムも存在しない。企業や工芸村での振興活動を活性化するためには、情報の一元化と、収集した情報を使いこなすためのノウハウや具体的なアクションが必要である。

クラスター 開発	工芸クラスターは共通のバイヤー、原材料供給者又はサービスプロバイダーを持った工芸生産者と企業の集合体である。これらの企業や生産者は同一の地域に集積しているために、地理的優位性を有する。いくつかの地域では既に競争力を持った工芸産業の集積がみられるものの、省政府や支援機関は生産クラスターの設立と開発に対するインセンティブを持たず、積極的かつ能動的な支援の手段を講じていない。工芸生産クラスター形成のためには組織化や共同化による活力向上と地域経済の活性化、競争力の優位性を高めるための共通の活動戦略を確立すべきである。
人材育成	工芸村の多くは、豊富な労働力には恵まれているものの、その技術力が不足しているために競争力に欠けている。政府が積極的に支援をしている人材育成プログラムは主に生産技術や経営者など、専門的な分野に特化している。工芸村での技術不足と市場情報不足といった課題を解決するためには、優れた技術者の育成、商品開発に関わる人材の育成が必要である。
ビジネス・ 経営管理 能力	創業者経営者は開発、マーケティング、品質管理、資金管理といったすべての機能を直接管理しており、組織的機能分担がないため、経営者が不在になると企業活動自体が機能停止する脆弱な構造にある。経営マネジメントの向上のための体質改善や経営者教育が求められている。
労働環境	環境汚染産業の管理の必要性に対する認識は高まりつつあるが、小規模家内工業型の工芸製作には関心が払われておらず、工芸製作による健康への影響に関する調査や情報はほとんど存在しない。労働環境に関する生産者の意識向上と、政府による環境改善システムが求められる。
金融・資 金	農村部や貧困層を対象にした制度金融は存在するが、零細企業や工芸村での生産者・輸出者にとって借りやすいシステムとなっておらず、資金不足に陥っている。工芸生産の仕組みや資金借入目的に合った、適切な金融システムの構築が必要である。
流通	工芸村の製品が都市部の市場に出るまでには、多くの仲介業者が存在する。工芸村には市場情報が存在しないため、適正な価格設定や品質改善が出来ず、競争力を失っている。仲介業者が BDS プロバイダーとしての役割を果たしながら、公正な流通システムを構築する必要がある。
マーケティ ング	市場で売れる製品を作るためには、技術と品質だけでなく、宣伝広告、流通対策、価格対策、環境対策など総合的なアプローチが必要になる。商品開発プロセスのノウハウがベトナムには存在しておらず、工芸村では市場に対応したもののづくりをするための技術と人材が求められている。
観光との リンクージ	観光地や都市近郊部では、観光客をターゲットとした工芸村の開発が進んでいる。また、少数民族は観光客への直接販売が唯一の現金収入となることが多い。工芸振興を梃子とした観光開発に対する関心は高いが、観光開発によるプラス（販売促進など）とマイナス（伝統の変化など）の影響に配慮しながら検討を進める必要がある。
自然環境 への影響	工芸品は元来、地場の原材料を用いながらも、環境との共生に配慮した地場産業である。しかし木材や土などの原材料の枯渇、排水や空気汚染による工芸村の環境汚染など、工芸が盛んになるにつれて、自然環境へ与える影響が大きくなっている。持続可能な工芸振興のためには、政府レベルでの検討と、環境にインパクトを与えないための、産地(原材料流通業者、企業、工芸村)への適切な指導が必要である。
少数民族 の支援	少数民族にとって工芸品は自家消費が主であるが、ベトナムの文化的財産であり、地域固有の伝統的価値である。政府による少数民族支援と工芸振興にあたっては、少数民族の多様性や抱えている問題点を十分に理解したうえで、地元政府や NGO との連携を図りながら進める必要がある。
伝統的価 値の保全	伝統的な工芸品は数百年の長い歴史をかけてベトナムの風土に調和し、地域固有の文化として根付いてきたものであるが、工芸振興の関心は市場価値や経済発展に向いており、工芸品の伝統的価値を評価し保全するための土壌が未熟である。伝統的な工芸品の弱点は、その限られた市場と商品価値の低さにあり、伝統的価値の保全と、それを商品価値として活用する方策が求められている。

5. パイロットプロジェクトの実施と成果

5.1 パイロットプロジェクトの目的と概要

パイロットプロジェクトは、マスタープランで作成し提案しようとする工芸セクターの開発・整備・改善手法が、政策として適用可能であること、パイロットプロジェクトの実施によって得られた教訓が適切な政策形成につながることを明らかにすること、さらにパイロットプロジェクトを通じて、他地域や他分野に適用可能な反復性のあるモデルを構築することを目的に実施した。

マッピング調査結果と現地調査結果をもとに抽出した17の主要課題を受けて、特に現地活動の実施によって改善が可能と考えられるものを対象に対応策や活動方針を明らかにし、パイロットプロジェクト(案)を作成した。2002年11月に開催したステアリングコミッティでの関連省庁の合意を得て、11月から2003年9月までの11ヶ月間を実施期間として、ローカルタスクフォース(ベトナム側の官側の代表者とローカルコンサルタントからなるチーム)を中心に、全9つのパイロットプロジェクトの活動を実施した。

5.2 パイロットプロジェクトのモニタリング

2003年2月に第1回、7月に第2回のパイロットプロジェクトワークショップを開催し、各タスクマネージャーから進捗状況報告と問題点、提案の報告を受け、関連省庁やモデル省政府関係者と意見交換を行なった。9月のパイロットプロジェクト完了時には第3回ワークショップを開催し、成果報告及び工芸振興マスタープランへの提案に関して、関連省庁やモデル省政府関係者と意見交換を行なった。

パイロットプロジェクトの実施過程において、タスクフォースや裨益者である工芸村だけでなく、省政府や他地域からも関心の高まりが見られ、ワークショップでは政府関係者や工芸従事者間での積極的な議論が交わされた。工芸村にとっては技術改良、売上げ向上、観光客増加などの具体的なインパクトがみられたこと、政府関係者にとっては地方政府の工芸振興に対する関心が高まり、政府内で工芸セクターに携わる人材が育ったことなど、人材育成や政策提言などのソフト面での効果についても高く評価された。



モデル省選定
ワークショップ



パイロットプロジェクト
ワークショップ

5.3 パイロットプロジェクトのプロセスと成果

PP1 工芸情報システム

背景・目的: 工芸の振興に多くの官・民のステークホルダーが共通して指摘する問題に、情報の不足、必要な情報へのアクセスの困難さが挙げられている。未だ通信事情の悪い地域やコンピューターの利用に対する知識の不足といった問題もあるが、今後の急速な IT 化の進展を考えると、基本的な工芸情報を蓄積し共有するメカニズムとして、ウェブサイトの構築とその利用促進が効果的と考えられる。その最初のステップとして、本調査で得られた工芸に関わる人材、組織、活動の情報をもとに MARD が中心となってウェブサイト構築し、同時にこの過程で他の関連省庁や省政府とのネットワークの確立をめざした。

活動内容: はじめに工芸マッピング調査の結果をデータベース化し、ウェブ上で情報にアクセス出来るようにした。また、4モデル省政府関係者を対象に機材供与を行ない、インターネットの仕組みや簡単な情報更新が出来るようウェブサイト構築のトレーニングを実施した。

成果: 本 PP の結果、工芸マッピング調査の結果を全ての工芸関係者が利用できるようになった。工芸マッピング調査の実施及びセミナーやワークショップ参加などを通じて築いた省政府 (DOI、DARD) とのネットワークは、省別の工芸情報を得るときに充分活用することが出来る。また、省レベルで工芸セクターを所管する DARD や DOI の協力によって、省、コミューン、工芸村レベルの様々な情報やデータを収集できるようになった。今後、工芸情報が公開されることで関係者の意識が高まり、情報の更新や追加が容易になることが期待できる。

課題と教訓: 工芸関係機関の間の情報交換をより一層活発化し、工芸情報システムとして十分に機能するために今後克服すべき課題が残されている。1) 現在の情報の更新に加え、いかなる情報が求められているかをマーケティングし、常に利用者の期待に応える体制を確立すること、2) ウェブサイトを農村部の全ての工芸村が利用できるようにするための具体的な方策を明らかにし、実行すること、3) 工芸情報システムを通して中央省庁、省政府、工芸村等の間で相互にコミュニケーションできるものにする、そして 4) 工芸情報システム充実のために、政府機関内の人材育成によって情報収集・分析能力の向上を図ること、が挙げられる。工芸を梃子にした地域振興を促進するためには、各地で生産されるオリジナリティある工芸品に関する情報を省単位で収集・蓄積し、情報アクセスツールとしてこのウェブサイトが活用されることが望まれる。



工芸ウェブサイト
www.mard-craft.org.vn



工芸品紹介ページ



ウェブサイト構築トレーニング

PP2 工芸クラスター開発

背景・目的: 一定の地域に集積し、地理的優位性を有するいくつかの省では既に競争力を持った工芸産業の集積がみられるものの、省政府や支援機関は生産クラスターの設立と開発に対するインセンティブを持たず、積極的な支援の手段を講じていない。そのため本 PP では、ハノイ近郊に位置し、伝統的・近代的な工芸振興がともに活発なハタイ省(北部)と、安定した原材料供給と豊富な技術者を活かして今後工芸振興を図ろうとするクアンナム省(中部)において、省レベルの工芸振興政策及び工芸クラスターの振興活動について支援を行なうことを目的に、中小企業の経営能力改善・生産工程改善及び工芸技術者の技術改善を実施した。さらにタイビン省(北部)では絹製品の品質基準と検定制度の設立を目的として、繭選定、煮沸、撚糸、絹織りの各段階での生産工程管理と品質検査を実施した。

活動内容: ハタイ省及びクアンナム省では、JICA 専門家から指導を受けた省政府のスタッフが直接工芸村を訪問し、経営ノウハウ・生産工程改善・労働環境管理に関するコンサルティングサービスの実施や生産者への指導を行なった。その結果、省政府関係者にそのノウハウが蓄積され、政府と企業が直接対話することにより、省政府による産地の現状や課題に対する理解が深まった。また、指導者の不足しているクアンナム省に対して、ハタイ省の優れた職人や講師が出向いて講義を行なうなど、指導者の地域間交流が行われ、関係者からの大きな賛同を得られた。タイビン省では、女性を中心とした生産者への技術トレーニングや品質管理の結果、開発した絹製品の品質が向上し、手織り黄繭絹製品の品質基準として省 PC の承認を受けた。

成果: 経営者のマネジメント能力向上や生産工程、労働環境の改善、高品質の絹製品生産など、目に見える成果を挙げることが出来た。本 PP に参加した省政府関係者からは特にコンサルティングサービスに対する指導と、手工芸技術指導者の産地間交流に対する関心と評価が高く、ハタイ省では自主的な継続活動を検討している。また、企業のコンサルタント活動や絹製品の品質管理方法に関するマニュアルがそれぞれ作成され、共通の活動指針が確立できた。

課題と教訓: 今後、これらの地域がクラスター集積としてさらに競争力を強めるにはなお課題は多い。具体的には、1)企業の競争力を強化するために、企業に対するコンサルティングサービスの実施や、品質管理基準の設定、2)同じ課題を抱える同じ地域の企業や産地の連携を図り、産地クラスターの核となる組織の強化が必要である。省政府を中心とした官民による継続的な取り組みと、それらの活動を支える外部からの適切な技術・資金支援が重要である。



クアンナム省
竹製品技術トレーニング



ハタイ省
コンサルタントチーム



タイビン省
検定済み絹糸

PP3 工芸の伝統的価値保全システム構築

背景・目的: ベトナムの工芸品の持続性を担保するための最も重要なファクターはオリジナリティであり、オリジナリティはその伝統に求められる。一方ベトナムの伝統価値の発掘、記録、保全、理解促進のための活動は不十分であり、限られた内外の研究者の手に委ねられている。こうした学術的側面も重要ではあるが、同時に工芸に従事する人達や産地での活動が不可欠である。しかしそうしたインセンティブもこれを支援するメカニズムも整っていない。本 PP では、工芸品や工芸村の伝統・文化的側面について“フォトボイス(Photo Voice)”と呼ばれる参加型の新しい調査を通じて伝統的価値を発掘、記録することを目的に実施した。

活動内容: バックニン省(北部)の伝統的ブロンズキャストリング、ライチャウ省(北部山岳地帯)少数民族ラオ族の伝統的織物を対象に、ベトナム民俗学博物館が中心となって活動を実施した。写真撮影トレーナーと調査員の指導によって、村民が異なる視点や角度から工芸品や工芸村に関わる様々な写真を撮影し、工芸村における伝統文化や、人々が抱えている様々な課題など、工芸村の生活の重要な側面を記録した。調査員のインタビューを通じて得られた、村民による伝統的・文化的価値に対する思いや抱えている問題点を明らかにし、写真とインタビュー結果をまとめてフォトパネルを製作した。これらの成果を対象村とベトナム民俗学博物館で展示会を開催した。

成果: 調査手法としての“フォトボイス”は極めて有効であり、当事者である村民の意識向上・理解促進に役立っただけでなく、学術面からも効果的であった。また、調査員と村民のダイアログを通じて、工芸村の村民の間や、若者と高齢工芸製作者との交流の機会を提供するとともに、村民による工芸村の伝統的価値への認識、そして工芸振興への関心が高まった。展覧会の開催により観光客の関心も高まり、展示されたフォトパネルや工芸品はベトナム工芸や少数民族の生活を知るための情報源として活用された。

課題と教訓: 本 PP は工芸村が魅力ある工芸品製作に向けてそれぞれの取り組みを促す重要な契機となるものと期待される。また、記録された伝統的価値が文化的財産としてだけでなく、観光資源や市場開拓にも寄与したことから、工芸振興を梃子とした地域振興のために伝統的価値が大いに貢献することが明らかとなった。今後、調査ガイドラインの充実、中央・省政府の財政的、技術的支援体制の確立、地方博物館の活用等によって、全国の工芸村に普及させるための具体的なメカニズムの構築が必要であろう。



写真撮影トレーニング



村民へのインタビュー



フォトボイス展覧会

PP4 工芸品振興のためのデザイン振興策の構築

背景・目的: ベトナムのオリジナリティや伝統価値は、デザインという行為を通して工芸品に反映される。“デザイン”とは外見の単なる造形や色づけの作業にとどまるものではなく、その背景となる文化的側面までを含めた概念であるが、その共通認識や理解は十分に浸透していない。デザイン振興という視点からは、デザインという概念の共通理解を深めるとともに、具体的なデザイン活動を支援する社会的システムの構築が不可欠である。本 PP では、デザイン振興のためのセミナーやワークショップの開催、具体的な振興活動の実践、デザイン理解のための共通ツールとなるデザインガイドブックの作成を通じて、デザイン振興のための持続可能な支援メカニズムの確立を目的として実施した。

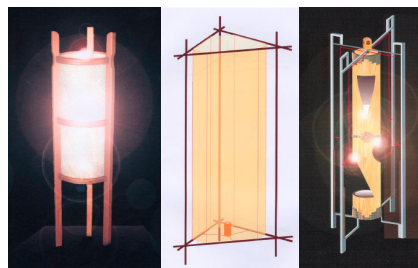
活動内容: 活動は①デザイン振興システムの提案、②デザイン概念の共有化、③デザイン振興活動、の3つを中心に実施した。デザイン理解のためのツールとなるデザインガイドを作成することによって、多様なデザイン活動に対する理解の浸透を図り、これらの共通理解をベースに、関連機関の協力により、デザイン振興のための社会的システム(制度及び機構)を提案した。またその過程で、ベトナム人自身によって企画されるデザインの実践的プロセスの実施や、デザイン関係者を対象とした数々のワークショップを開催した。

成果: デザインガイドブックの作成やワークショップの開催によって、“デザイン”に対するより総合的かつ深い理解が参加者の間で促進された。デザインの実践的プロセスとなる「調査・企画」、「造形・カラーリング」、「広報・販促」という3ステップに基づき、消費者生活調査や商品開発を実施した結果、デザイン指導体制が各地域や機関ごとにバラバラに行われている現状の問題が明らかになった。そのため、本 PP で作成された“デザインガイドブック”は具体的にデザインを理解する媒体として効果的である。

課題と教訓: 本 PP ではデザインについての認識の転換、実践的方法論の提示、振興システムの提案といったデザイン振興の初期段階の活動にとどまったが、活動の成果をベースにして、将来にむけて実践的なデザイン振興活動の輪が広がっていくとともに、商品開発や教育の場面で具体的な成果が出てくることが期待される。今後は特に生産現場での商品開発指導、教育機関と企業の連携による即戦力となるデザイナーの育成、政府機関でのデザイン振興担当部署の設置や関係省庁によるデザイン審議会の設立など、各分野の連携によるデザイン振興システムの構築が求められる。



デザインガイドブック



デザイン提案



デザイン振興セミナー

PP5 国際競争力のある工芸品開発

背景・目的: ベトナムの工芸従事者は高度な技術を持ちながらも、新たなデザインやマーケットニーズの情報が不足しているために、国際市場での競争力が不足している。商品開発から製造、販売、市場評価までの一連の流れを把握し、市場での情報や評価を生産者へフィードバックする、コーディネーターとしての人材育成が必要である。本 PP では、ベトナムの伝統的価値を持ち、かつ国際市場での競争力を持ちうる商品開発を実践し、そのプロセスで工芸家や工芸従事者に、新たな商品開発の知識と方法を技術移転するとともに、市場と生産者をつなぐ人材としてのコーディネーターを育成することを目的として実施した。

活動内容: 専門家の指導のもと、技術伝承、商品開発、流通、市場販売までの一連の流れを理解し、マーチャライジングプランの作成や、技術者に対して評価や提案を行なうことの出来る人材（商品開発コーディネーター）を育成した。この過程でコーディネーターは、素材の選定、デザイン開発、品質管理等を行ないながら、ハノイ近郊（ハノイ、ハタイ省、ナムディン省）の優れた工芸職人とともに国際競争力のある工芸品（漆器、石彫、ブロンズキャストイング、木彫の4品目、全 275 点）を開発し、展示会を開催した。

成果: 開発した工芸品は国内外の関係者から高い評価を受け、優れたデザインと品質管理によって、ベトナム工芸品が十分に国際競争力を持ちうる商品として開発出来ることを示すことが出来た。その開発プロセスに不可欠なのはコーディネーターの存在であり、彼らがデザイナーと工芸職人の間をつなぎ、自在に商品開発するという方法を新たに確立した。また、プロトタイプ製作にあたった多くのマスターアルティザンが自らの伝統技術を活かし、新たなデザインの導入によって、市場ニーズに対応した商品を生み出すことが出来た。

課題と教訓: 今後、国際市場と工芸村をつなぐキーパーソンとなるコーディネーターが、デザイン現場や市場を活性化させるだけでなく、技術や情報不足に悩む農村部の工芸村にとっても新しい方向性をつくりだす重要な役割を担うことが期待される。本 PP で作成された「コーディネーター育成マニュアル」によって、コーディネーターに必要なスキルやその活動内容が明確になり、今後このマニュアルに基づき、教育機関や民間セクターで優れたコーディネーターが育成されることが望まれる。そのためには官民パートナーシップの確立による、コーディネーター育成システムの整備が欠かせない。



テクスチャーサンプル開発品



開発工芸品



職人による評価